



「本物に触れ、実体験を通して学ぶ」 探求的な学び

4年生は、2学期の総合的な学習の時間、『未来の地球を守ろう -SDGsを広げよう-』というテーマで探求的な学習に取り組んでいます。段ボールコンポスト、古着リサイクル、株式会社サントリープロダクトの環境保全への取組など、体験学習や出前授業を通して、SDGsへの理解を深め、サステナブルな社会について考え、課題解決に取り組めます。

企業や官公庁など、外部から専門家を招いて、本物に触れ、実体験を通して学ぶことで、学習の質が高まるとともに、学んでいることと社会とのつながりを捉えることができます。そのことで、子どもたちは興味や関心をより高めて、学習に取り組むことができると考えています。

■生ごみを堆肥に！ 段ボールコンポスト

9月6日（金）、エコクリーンピアはりまの職員の方に来ていただき、「段ボールコンポスト」の取組を開始しました。子どもたちは、約3か月間、毎日、給食室から出る生ごみ（野菜くず）を段ボール箱の中の土に混ぜて発酵させ、良質の堆肥を作っていきます。生ごみを堆肥に変えて利用することでごみ減量化につながることを学んでいます。



■古着を通して「4R」を学ぶ

9月9日（月）、米田町で古着リサイクルに取り組んでおられる株式会社Kurokawaの職員の方に来ていただき、クイズ形式で3R「リサイクル・リユース・リデュース」について学習しました。最近は、レジ袋を受け取らないなどの「リフューズ」も加えて4Rとなっていることも教えてくださいました。また、最も3Rが進んでいた江戸時代のエコライフについて学んだり、住宅の断熱材などに使われる反毛や古着から作られたリサイクル製品も実際に見せていただいたりしました。学習の最後に配られた“環境をマモルンジャーカード”に「エコバックを持って買い物に行く」など、自分が実践することを書いて発表しました。



■ペットボトルのリサイクル “ボトル to ボトル”

9月12日（木）、（株）サントリープロダクツ高砂の職員の方に来ていただき、サントリーのSDGsの取組について紹介していただきました。

まず初めに、サントリー高砂工場とそこで生産されているペットボトルのお茶の作り方を教えてもらいました。また、飲料用ペットボトルの原型「プリフォーム」も一人ずつ手にとって見せてもらいました。次に、サントリーのSDGsの取組でもある、ペットボトルのリサイクル100%を目指す“ボトル to ボトル”について紹介していただきました。最後に、子どもたちは、自分ができることをワークシートにまとめ、発表しました。子どもたちには、学んだことを家族にも伝えるとともに、ぜひ行動につなげてほしいです。

